

?S PN=JP 10046169
S3 1 PN=JP 10046169

?T /5

3/5/1
DIALOG(R)File 352:Dewent WPI
(c) 2001 Derwent Info Ltd. All rts. reserv.

011772684

WPI Acc No: 1998-189594/199817

XRAM Acc No: C98-060555

XRFX Acc No: N98-150769

Lubricating oil composition for refrigerator - comprises carbon dioxide
main coolant and base oil of either poly(oxyalkylene glycol) and
polyvinyl ether

Patent Assignee: IDEMITSU KOSAN CO LTD (IDEK)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 10046169	A	19980217	JP 96207391	A	19960806	199817 B

Priority Applications (No Type Date): JP 96207391 A 19960806

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

JP 10046169 A 11 C10M-105/18

Abstract (Basic): JP 10046169 A

The compsn. contains a refrigerant with a main coolant of CO2 and a
base oil with a dynamic viscosity at 100 deg.C of 5 cSt or higher, of
at least one chosen from poly(oxyalkylene glycol) and polyvinyl ether.

USE - Lubricating oil for the compression type refrigeration cycle
contg. oil separator and/or hot gas line.

ADVANTAGE - The compsn. shows the improved lubricity and sealing in
the atmosphere of CO2 as a refrigerant.

Dwg.0/4

Title Terms: LUBRICATE; OIL; COMPOSITION; REFRIGERATE; COMPRISE; CARBON; DI
OXIDE; MAIN; COOLANT; BASE; OIL; POLY; OXYALKYLENE; GLYCOL; POLYVINYL;
ETHER

Derwent Class: A97; G04; H08; J07; X27

International Patent Class (Main): C10M-105/18

International Patent Class (Additional): C09K-005/04; C10M-107/24;

C10M-171/02; C10N-030-02; C10N-030-06; C10N-040-30

File Segment: CPI; EPI

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-46169

(43) 公開日 平成10年(1998) 2月17日

(51) Int.Cl. ⁴	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
C 1 0 M 105/18			C 1 0 M 105/18	
C 0 9 K 5/04	Z A B		C 0 9 K 5/04	Z A B
C 1 0 M 107/24			C 1 0 M 107/24	
171/02			171/02	
// C 1 0 N 30:02				

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願平8-207391	(71) 出願人	000183646 出光興産株式会社 東京都千代田区丸の内3丁目1番1号
(22) 出願日	平成8年(1996) 8月6日	(72) 発明者	永尾 智 千葉県袖ヶ浦市上泉1280番地 出光興産株式会社内
		(72) 発明者	半田 豊和 千葉県袖ヶ浦市上泉1280番地 出光興産株式会社内
		(74) 代理人	弁理士 大谷 保

(54) 【発明の名称】 冷凍機用潤滑油組成物

(57) 【要約】

【課題】 冷媒としてのCO₂：雰囲気下で、潤滑性能及びシール性が高い冷凍機用潤滑油組成物を提供すること。

【解決手段】 (A) CO₂を主成分とする冷媒、及び

(B) ポリオキシアルキレングリコール及びポリビニルエーテルから選ばれる少なくとも一種からなり、100℃における動粘度が5 c S t以上である基油、を含有することを特徴とする冷凍機用潤滑油組成物である。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 (A) CO₂を主成分とする冷媒、及び (B) ポリオキシアルキレングリコール及びポリビニルエーテルから選ばれる少なくとも一種からなり、100℃における動粘度が5 cSt以上である基油、を含有することを特徴とする冷凍機用潤滑油組成物。

【請求項2】 (B) 成分の基油がポリオキシアルキレングリコールである請求項1記載の冷凍機用潤滑油組成物。

【請求項3】 ポリオキシアルキレングリコールの少なくとも一つの末端基がアルキル基である請求項2記載の冷凍機用潤滑油組成物。

【請求項4】 ポリオキシアルキレングリコールの両末端基がアルキル基である請求項3記載の冷凍機用潤滑油組成物。

【請求項5】 (B) 成分の基油の100℃における動粘度が10 cSt以上である請求項1記載の冷凍機用潤滑油組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は冷凍機用潤滑油組成物に関し、さらに詳しくは、CO₂を主成分とする冷媒を用いた冷凍機用潤滑油組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、冷凍機、例えば圧縮機、凝縮器、膨張弁及び蒸発器からなる圧縮式冷凍サイクルには、冷媒としてジクロロジフルオロメタン (R-12) やクロロジフルオロメタン (R-22) 等のフッ化炭化水素系のフロン化合物が用いられており、また、それと併用して多数の潤滑油が製造され使用されてきた。しかるに、従来冷媒として使用されてきたこのフロン化合物は、大気中に放出されるときに、オゾン層を破壊し、環境汚染問題を惹起する恐れがあると懸念されている。近時、その環境汚染対策の面から、その代替となりうる1, 1, 1, 2-テトラフルオロエタン (R-134a) 等のフッ化炭化水素 (あるいは塩化フッ化炭化水素) の開発が進められ、既に、R-134aをはじめ、環境汚染の恐れが少なく、上記要求特性を満足する各種の所謂代替フロンが市場に出回るようになって来ている。しかしながら、このようなフッ化炭化水素 (あるいは塩化フッ化炭化水素) においても、地球温暖化能が高いなどの問題があり、近年このような問題のない自然系冷媒の使用等が考えられてきた。一方で、炭酸ガスは環境に対して無害であり、人に対する安全性という観点では優れたものであり、更に、①経済的な最適圧力に近い圧力、②従来の冷媒に比べ、非常に小さい圧力比、③通常のオイルと機械の構造材料に対して優れた適合性、④いたる場所で簡単に入手可能、⑤回収不用、非常に安価である、などの利点を有しており、従来から冷凍機などの冷媒として通常使用されてきたものである。しかしながら、このよ

うな炭酸ガスを冷凍機の冷媒として用いた場合、冷凍機の潤滑油として、従来一般的に使用されている潤滑油で潤滑すると潤滑性に劣り、耐摩耗性が不充分となり、安定性に劣る等の結果となる。更に、炭酸ガスを用いた系では、R-134aなどを用いた系に比べ吐出圧が高く、この結果潤滑油の粘度が低下し、系のシール性が悪化するという問題も生じていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、このような状況下でなしに選ばれるものであり、冷媒としてのCO₂：雰囲気下で、潤滑性能及びシール性が高い冷凍機用潤滑油組成物を提供することを目的とするものである。

【0004】

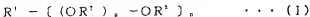
【課題を解決するための手段】 本発明者らは、前記の好ましい性質を有する冷凍機用潤滑油組成物を開発すべく鋭意研究を重ねた結果、特定の性状を有する特定の種類の潤滑油からなる潤滑油組成物の使用によりその目的を達成しうることを見出した。本発明は、かかる知見に基づいて完成したものである。すなわち、本発明は、

(A) CO₂を主成分とする冷媒、及び (B) ポリオキシアルキレングリコール及びポリビニルエーテルから選ばれる少なくとも一種からなり、100℃における動粘度が5 cSt以上である基油、を含有することを特徴とする冷凍機用潤滑油組成物を提供するものである。

【0005】

【発明の実施の形態】 本発明の冷凍機用潤滑油組成物は、(A) CO₂を主成分とする冷媒、及び (B) ポリオキシアルキレングリコール及びポリビニルエーテルから選ばれる少なくとも一種からなり、100℃における動粘度が5 cSt以上である基油、を含有することを特徴とするものである。本発明において用いられる (A) 成分のCO₂を主成分とする冷媒としては、CO₂をそのまま使用する場合のほか、これを炭化水素、R-134a等のフッ化炭化水素 (あるいは塩化フッ化炭化水素)、エーテルなどの冷媒等と混合したものも使用することができる。また、(B) 成分の基油としては、ポリオキシアルキレングリコール及びポリビニルエーテルから選ばれる少なくとも一種からなるものが使用される。

【0006】 ここで、使用されるポリオキシアルキレングリコールとしては、例えば一般式 (1)

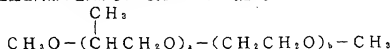


(式中、R' は水素原子、炭素数1～10のアルキル基、炭素数2～10のアシル基又は結合部2～6個を有する炭素数1～10の脂肪族炭化水素基、R' は炭素数2～4のアルキル基、R' は水素原子、炭素数1～10のアルキル基又は炭素数2～10のアシル基、nは1～6の整数、mはm×nの平均値が6～8となる数を示す。) で表される化合物が挙げられる。上記一般式 (1) において、R'、R' におけるアルキル基は直鎖状、分岐鎖状、環状のいずれであってもよい。該アルキ

ル基の具体例としては、メチル基、エチル基、n-プロピル基、イソプロピル基、各種ブチル基、各種ペンチル基、各種ヘキシル基、各種ヘプチル基、各種オクチル基、各種ノニル基、各種デシル基、シクロペンチル基、シクロヘキシル基などを挙げることができる。このアルキル基の炭素数が10を超えるると冷媒との相溶性が低下し、相分離を生じる場合がある。好ましいアルキル基の炭素数は1~6である。

【0007】また、R¹、R²における該アルキルのアルキル基部分は直鎖状、分岐鎖状、環状のいずれであってもよい。該アルキルのアルキル基部分の具体例としては、上記アルキル基の具体例として挙げた炭素数1~9の種々の基を同様に挙げることができる。該アルキルの炭素数が10を超えるると冷媒との相溶性が低下し、相分離を生じる場合がある。好ましいアルキルの炭素数は2~6である。R¹及びR²が、いずれもアルキル基又はアシル基である場合には、R¹とR²は同一であってもよいし、たがいに異なってもよい。さらにnが2以上の場合は、1分子中の複数のR²は同一であってもよいし、異なってもよい。

【0008】R¹が結合部位2~6個を有する炭素数1~10の脂肪族炭化水素基である場合、この脂肪族炭化水素基は鎖状のものであってもよいし、環状のものであってもよい。結合部位2個を有する脂肪族炭化水素基としては、例えばエチレン基、プロピレン基、ブチレン基、ペンチレン基、ヘキシル基、ヘプチレン基、オクチレン基、ノニレン基、デシル基、シクロペンチレン基、シクロヘキシル基などが挙げられる。また、結合部位3~6個を有する脂肪族炭化水素基としては、例えばトリメチロールプロパン、グリセリン、ペンタエリスリトール、ソルビトール；1, 2, 3-トリヒドロキシシクロヘキサール；1, 3, 5-トリヒドロキシシクロヘキサールなどの多価アルコールから水酸基を除いた残基を挙げることができる。この脂肪族炭化水素基の炭素数が10を超えるると冷媒との相溶性が低下し、相分離が生じる場合がある。好ましい炭素数は2~6である。本発明においては、上記R¹及びR²は少なくとも一つがアルキル基、特に炭素数1~3のアルキル基であることが好ましく、とりわけメチル基であることが粘度特性の点から好ましい。更には、上記と同様の理由からR¹及びR²



【0014】(式中、a及びbは、それぞれ1以上、かつそれらの合計が6~80となる数を示す。)で表されるポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリコールジメチルエーテルが経済性及び効果の点で好適であり、また一般式

【0015】

【化3】

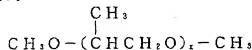
の両方がアルキル基、特にメチル基であることが好ましい。

【0009】前記一般式(1)中のR²は炭素数2~4のアルキレン基であり、繰返し単位のオキシアルキレン基としては、オキシエチレン基、オキシプロピレン基、オキシブチレン基が挙げられる。1分子中のオキシアルキレン基は同一であってもよいし、2種以上のオキシアルキレン基が含まれていてもよい。とりわけ、オキシエチレン基(EO)とオキシプロピレン基(PO)を含む共重合体が好ましく、このような場合、粘度特性の点からEO/(PO+EO)の値が0.1~0.8の範囲にあることが好ましく、また、吸湿性の点からはEO/(PO+EO)の値が0.3~0.6の範囲にあることが好ましい。

【0010】前記一般式(1)中のnは1~6の整数で、R¹の結合部位の数に応じて定められる。例えばR¹がアルキル基又はアシル基の場合、nは1であり、R¹が結合部位2, 3, 4, 5及び6個を有する脂肪族炭化水素基である場合、nはそれぞれ2, 3, 4, 5及び6となる。また、mはm×nの平均値が6~80となる数であり、m×nの平均値が前記範囲を逸脱すると本発明の目的は十分に達せられない。前記一般式(1)で表されるポリアルキレングリコールは、末端に水酸基を有するポリアルキレングリコールを包含するものであり、該水酸基の含有量が全末端基に対して、50モル%以下になるような割合であれば、含有しても好適に使用することができる。この水酸基の含有量が50モル%を超えると吸湿性が増大し、粘度指数が低下するので好ましくない。このようなポリアルキレングリコールとしては、一般式

【0011】

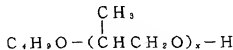
【化1】



【0012】(式中、xは6~80の数を示す。)で表されるポリオキシプロピレングリコールジメチルエーテル、一般式

【0013】

【化2】



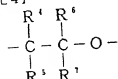
【0016】(式中、xは6~80の数を示す。)で表されるポリオキシプロピレングリコールモノブチルエーテル、さらにはポリオキシプロピレングリコールジアセテートなどが、経済性等の点で好適である。なお、上記

一般式(1)で表されるポリアルキレングリコールについては、特開平2-305893号公報に詳細に記載されたものをいづれも使用することができる。本発明においては、上記ポリオキシアレングリコールとして、

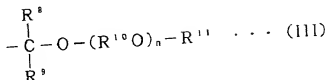
一般式(II)

[0017]

[化4]



... (II)



[0019] (R¹ 及び R⁹ はそれぞれ水素、炭素数1~10の一面炭化水素基又は炭素数2~20のアルコキシアルキル基を示し、R¹⁰は炭素数2~5のアルキレン基、アルキル基を置換基として有する総炭素数2~5の置換アルキレン基又はアルコキシアルキル基を置換基として有する総炭素数4~10の置換アルキレン基を示し、nは0~20の整数、R¹¹は炭素数1~10の一面炭化水素を示す。)で表される基であり、R¹ ~ R⁹ の少なくとも1つが一般式(III)で表される基である]で表される構成単位を少なくとも1個有するポリオキシアレングリコール誘導体を使用することができる。ここで、式中R¹ ~ R⁹ はそれぞれ水素、炭素数1~10の一面炭化水素基または上記一般式(III)で表わされるものであるが、炭素数1~10の一面炭化水素基としては、炭素数6以下の一面炭化水素基を好ましく使用でき、特に炭素数3以下のアルキル基が最適である。

[0020] また一般式(II)において、R¹ および R⁹ はそれぞれ水素、炭素数1~10の一面炭化水素基または炭素数2~20のアルコキシアルキル基を示すが、これらの中で炭素数3以下のアルキル基または炭素数6以下のアルコキシアルキル基が好ましい。R⁶は炭素数2~5のアルキレン基、アルキル基を置換基として有する総炭素数2~5の置換アルキレン基又はアルコキシアルキル基を置換基として有する総炭素数4~10の置換アルキレン基を示すが、好ましくは炭素数6以下のエチレン基及び置換エチレン基である。R¹¹は炭素数1~10の一面炭化水素基を示すが、これらの中で炭素数6以下の炭化水素基が好ましく、炭素数3以下の炭化水素基が特に好ましい。なお、前述の一般式(II)におけるR¹ ~ R⁹ のうち少なくとも1つは、一般式(III)で表される基である。特に、R¹、R⁶のいずれか一つが一般式(III)の基であって、R¹、R⁶の残りの一つ及び

(R¹ ~ R⁹ はそれぞれ水素、炭素数1~10の一面炭化水素基または一般式(III)

[0018]

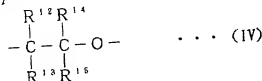
[化5]

R¹、R⁹ がそれぞれ水素または炭素数1~10の一面炭化水素基であるのが好ましい。

[0021] 上記ポリオキシアレングリコール誘導体は、前記一般式(II)で表される構成単位を少なくとも1つ含有するものであるが、より詳しくはこの一般式(II)の構成単位からなる単体重合体、一般式(II)に含まれる2つ以上の異なる構成単位からなる共重合体、及び一般式(II)の構成単位と他の構成単位、例えば一般式(IV)

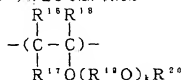
[0022]

[化6]

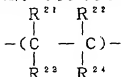


[0023] (R¹¹ ~ R¹³ はそれぞれ水素又は炭素数1~3のアルキル基を示す。)で表される構成単位からなる共重合体の三種類に大別することができる。上記単体重合体の好適例は、一般式(II)で表される構成単位Aを1~200個有するとともに、末端基がそれぞれ水素基、炭素数1~10のアシルオキシ基、炭素数1~10のアルコキシ基あるいはアリロキシ基からなるものをあげることができる。一方、共重合体の好適例は、一般式(II)で表される二種類の構成単位A、Bをそれぞれ1~200個有するか、あるいは一般式(II)で表される構成単位Aを1~200個と一般式(III)で表される構成単位Cを1~200個有するとともに、末端基がそれぞれ水酸基、炭素数1~10のアシルオキシ基、炭素数1~10のアルコキシ基あるいはアリロキシ基からなるものをあげることができる。これらの共重合体は、構成単位Aと構成単位B(あるいは構成単位C)との交互共重

合、ランダム共重合、ブロック共重合体あるいは構成単位Aの主鎖に構成単位Bがグラフト結合したグラフト共重合体など様々なものがある。(B)成分である基油として用いられるポリビニルエーテルとしては、例えば一



【0025】(式中、 R^{18} 、 R^{17} 及び R^{19} はそれぞれ水素原子又は炭素数1～8の炭化水素基を示し、それらはたがい同一でも異なっているてもよく、 R^{18} は炭素数1～10の二価の炭化水素基又は炭素数2～20の二価のエーテル結合酸素含有炭化水素基、 R^{20} は炭素数1～20の炭化水素基、kはその平均値が0～10の数を示し、 $\text{R}^{18} \sim \text{R}^{19}$ は構成単位毎に同一であってもそれぞれ



【0027】(式中、 $\text{R}^{21} \sim \text{R}^{22}$ は、それぞれ水素原子又は炭素数1～20の炭化水素基を示し、それらはたがい同一でも異なっているてもよく、また $\text{R}^{21} \sim \text{R}^{22}$ は構成単位毎に同一であってもそれぞれ異なっているてもよい。)で表される構成単位とを有するブロック又はランダム共重合体からなるポリビニルエーテル系化合物も使用することができる。上記一般式(V)における R^{18} 、 R^{17} 及び R^{19} はそれぞれ水素原子又は炭素数1～8、好ましくは1～4の炭化水素基を示し、それらはたがい同一でも異なっているてもよい。ここで炭化水素基とは、具体的にはメチル基、エチル基、n-プロピル基、イソプロピル基、n-ブチル基、イソブチル基、sec-ブチル基、tert-ブチル基、各種ペンチル基、各種ヘキシル基、各種ヘプチル基、各種オクチル基のアルキル基、シクロペンチル基、シクロヘキシル基、各種メチルシクロヘキシル基、各種エチルシクロヘキシル基、各種ジメチルシクロヘキシル基などのシクロアルキル基、フェニル基、各種メチルフェニル基、各種エチルフェニル基、各種ジメチルフェニル基のアリール基、ベンジル基、各種フェニルエチル基、各種メチルベンジル基のアリールアルキル基を示す。なお、これらの R^{18} 、 R^{17} 、 R^{19} としては、特に水素原子が好ましい。

【0028】一方、一般式(V)中の R^{18} は、炭素数1～10、好ましくは2～10の二価の炭化水素基又は炭素数2～20の二価のエーテル結合酸素含有炭化水素基を示す。ここで炭素数1～10の二価の炭化水素基とは、具体的にはメチレン基、エチレン基、フェニルエチレン基、1,2-プロピレン基、2-フェニル-1,2-プロピレン基、1,3-プロピレン基、各種ブチレン

基式(V)
【0024】
【化7】

... (V)

異なっているてもよく、また R^{18} が複数ある場合には、複数の R^{18} は同一でも異なっているてもよい。)で表される構成単位を有するポリビニルエーテル系化合物が導かれる。また、上記一般式(V)で表される構成単位と、一般式(VI)

【0026】

【化8】

... (VI)

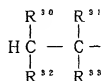
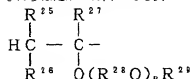
基：各種ペンチレン基；各種ヘキシレン基；各種ヘプチレン基；各種オクチレン基；各種ノニレン基；各種デシレン基の二価の脂肪族基、シクロヘキサン；メチルシクロヘキサン；エチルシクロヘキサン；ジメチルシクロヘキサン；プロピルシクロヘキサンなどの脂環式炭化水素に2個の結合部位を有する脂環式基、各種フェニレン基；各種メチルフェニレン基；各種エチルフェニレン基；各種ジメチルフェニレン基；各種ナフチレン基などの二価の芳香族炭化水素基、トルエン；キシレン；エチルベンゼンなどのアルキル芳香族炭化水素のアルキル基部分と芳香族部分にそれぞれ一価の結合部位を有するアルキル芳香族基、キシレン；ジエチルベンゼンなどのポリアルキル芳香族炭化水素のアルキル基部分に結合部位を有するアルキル芳香族基などがある。これらの中で炭素数2から4の脂肪族基が特に好ましい。

【0029】また、炭素数2～20の二価のエーテル結合酸素含有炭化水素基の具体例としては、メトキシメチレン基；メトキシエチレン基；メトキシメチルエチレン基；1,1-ビスメトキシメチルエチレン基；1,2-ビスメトキシメチルエチレン基；エトキシメチルエチレン基；(2-メトキシエトキシ)メチルエチレン基；(1-メチル-2-メトキシ)メチルエチレン基などを好ましく挙げることができる。なお、一般式(V)におけるkは R^{18} の繰返し数を示し、その平均値が0～10、好ましくは0～5の範囲の数である。 R^{18} が複数ある場合には、複数の R^{18} は同一でも異なっているてもよい。

【0030】さらに、一般式(V)における R^{20} は炭素数1～20、好ましくは1～10の炭化水素基を示す

が、この炭化水素基とは、具体的にはメチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、イソブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-ブチル基、各種ベンチル基、各種ヘキシル基、各種ヘプチル基、各種オクチル基、各種ノニル基、各種デシル基のアルキル基、シクロペンチル基、シクロヘキシル基、各種メチルシクロヘキシル基、各種エチルシクロヘキシル基、各種プロピルシクロヘキシル基、各種ジメチルシクロヘキシル基などのシクロアルキル基、フェニル基、各種メチルフェニル基、各種エチルフェニル基、各種ジメチルフェニル基、各種プロピルフェニル基、各種トリメチルフェニル基、各種ブチルフェニル基、各種ナフチル基などのアリール基、ベンジル基、各種フェニルエチル基、各種メチルベンジル基、各種フェニルプロピル基、各種フェニルブチル基のアリールアルキル基などを示す。なお、該R¹⁶～R²⁸は構成単位毎に同一であっても異なってもよい。

【0031】上記一般式(V)で表されるポリビニルエーテル系化合物(1)は、その炭素/酸素モル比が4.2～7.0の範囲にあるものが好ましい。このモル比が4.2未満では、吸湿性が高く、また7.0を超えると、冷媒との相溶性が低下する場合がある。上記一般式(VI)において、R¹⁷～R¹⁸は、それぞれ水素原子又は炭素数1～20の炭化水素基を示し、それらはたがいにも同一でも異



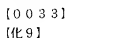
【0034】(式中、R²⁵、R²⁷及びR²⁸は、それぞれ水素原子又は炭素数1～8の炭化水素基を示し、R¹⁶、R²⁶及びR²⁷はたがいにも同一でも異なってもよく、R¹⁹、R²¹、R²²及びR²³は、それぞれ水素原子又は炭素数1～20の炭化水素基を示し、R²⁰、R²¹、R²²及びR²³はたがいにも同一でも異なってもよい。R²⁴は炭素数1～10の二価の炭化水素基又は炭素数2～20

なってもよい。ここで、炭素数1～20の炭化水素基としては、上記一般式(V)におけるR¹⁹の説明において例示したものと同じものを挙げることができる。なお、R²¹～R²⁴は構成単位毎に同一であってもそれぞれ異なってもよい。

【0032】該一般式(V)で表される構成単位と一般式(VI)で表される構成単位とを有するブロック又はランダム共重合体からなるポリビニルエーテル系化合物

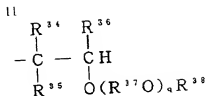
(2)は、その炭素/酸素モル比が4.2～7.0の範囲にあるものが好ましく用いられる。このモル比が4.2未満では、吸湿性が高く、7.0を超えると、冷媒との相溶性が低下する場合がある。さらに本発明においては、上記ポリビニルエーテル系化合物(1)と上記ポリビニルエーテル系化合物(2)との混合物も使用することができる。本発明に用いられるポリビニルエーテル系化合物

(1)及び(2)は、それぞれ対応するビニルエーテル系モノマーの重合、及び対応するオレフィン性二重結合を有する炭化水素モノマーと対応するビニルエーテル系モノマーとの共重合により製造することができる。本発明に用いられるポリビニルエーテル系化合物としては、次の末端構造を有するもの、すなわちその一つの末端が、一般式(VII)又は(VIII)

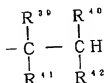


の二価のエーテル結合酸素含有炭化水素基、R²⁵は炭素数1～20の炭化水素基、pはその平均値が0～10の数値を示し、R²⁷Oが複数ある場合には、複数のR²⁸Oは同一でも異なってもよい。)で表され、かつ残りの末端が一般式(IX)又は(X)



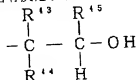


... (IX)



... (X)

【0036】(式中、 R^{11} 、 R^{12} 及び R^{14} は、それぞれ水素原子又は炭素数1～8の炭化水素基を示し、 R^{11} 、 R^{12} 及び R^{14} はたがいにより同一でも異なってもよく、 R^{14} 、 R^{10} 、 R^{11} 及び R^{12} は、それぞれ水素原子又は炭素数1～20の炭化水素基を示し、 R^{13} 、 R^{14} 、 R^{11} 及び R^{12} はたがいにより同一でも異なってもよい。 R^{21} は炭素数1～10の二価の炭化水素基又は炭素数2～20の二価のエーテル結合酸素含有炭化水素基、 R^{21} は炭素

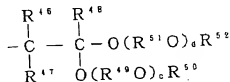


... (XI)

【0038】(式中、 R^{12} 、 R^{11} 及び R^{14} は、それぞれ水素原子又は炭素数1～8の炭化水素基を示し、それらはたがいにより同一でも異なってもよい。)で表される構造を有するものが好ましい。このようなポリビニルエーテル系化合物の中で、特に次に挙げるものが本発明においては好適である。

(1) その一つの末端が一般式 (VII) 又は (VIII) で表され、かつ残りの末端が一般式 (IX) 又は (X) で表される構造を有し、一般式 (V) における R^{14} 、 R^{11} 及び R^{12} が共に水素原子、 k が0～4の数、 R^{14} が炭素数2～4の二価の炭化水素基及び R^{10} が炭素数1～20の炭化水素基であるもの。

(2) 一般式 (V) で表される構成単位のみを有するものであって、その一つの末端が一般式 (VII) で表され、かつ残りの末端が一般式 (IX) で表される構造を有し、一般式 (V) における R^{14} 、 R^{11} 及び R^{12} が共に水素原子、 k が0～4の数、 R^{14} が炭素数2～4の二価の炭化水素基及び R^{10} が炭素数1～20の炭化水素基であるもの。



... (XII)

【0041】(式中、 R^{14} 、 R^{11} 及び R^{12} は、それぞれ水素原子又は炭素数1～8の炭化水素基を示し、それら

数1～20の炭化水素基、 q はその平均値が0～10の数を示し、 R^{21} が複数ある場合には、複数の R^{21} は同一でも異なってもよい。)で表される構造を有するもの、及びその一つの末端が、上記一般式 (VII) 又は (VIII) で表され、かつ残りの末端が一般式 (XI)

【0037】

【化11】

【0039】(3) その一つの末端が一般式 (VII) 又は (VIII) で表され、かつ残りの末端が一般式 (XI) で表される構造を有し、一般式 (V) における R^{14} 、 R^{11} 及び R^{12} が共に水素原子、 k が0～4の数、 R^{14} が炭素数2～4の二価の炭化水素基及び R^{10} が炭素数1～20の炭化水素基であるもの。

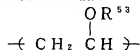
(4) 一般式 (V) で表される構成単位のみを有するものであって、その一つの末端が一般式 (VII) で表され、かつ残りの末端が一般式 (X) で表される構造を有し、一般式 (V) における R^{14} 、 R^{11} 及び R^{12} が共に水素原子、 k が0～4の数、 R^{14} が炭素数2～4の二価の炭化水素基及び R^{10} が炭素数1～20の二価の炭化水素基及び R^{12} が炭素数1～20の炭化水素基であるもの。また本発明においては、前記一般式 (V) で表される構成単位を有し、その一つの末端が一般式 (VII) で表され、かつ残りの末端が一般式 (XII)

【0040】

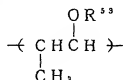
【化12】

はたがいにより同一であっても異なってもよく、 R^{14} 及び R^{12} はそれぞれ炭素数2～10の二価の炭化水素基を

示し、それらは互いに同一であっても異なってもよく、 $R^{1'}$ 及び $R^{2'}$ はそれぞれ炭素数 1~10 の炭化水素基を示し、それらは互いに同一であっても異なってもよく、 c 及び b はそれぞれその平均値が 0~10 の数を示し、それらは互いに同一であっても異なってもよく、また複数の $R^{1'}$ O がある場合には複数の $R^{1'}$ O が同一であっても異なってもよいし、複数の $R^{1'}$ O が

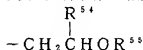


... (XIII)



... (XIV)

【0043】(式中、 R^{23} は炭素数 1~8 の炭化水素基を示す。) で表される構成単位からなり、かつ重量平均分子量が 300~5,000 であって、片末端が一般式

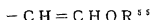


(XV) 又は (XVI)

【0044】

【化 14】

... (XV)



... (XVI)

【0045】(式中、 R^{21} は炭素数 1~3 のアルキル基、 R^{22} は炭素数 1~8 の炭化水素基を示す。) で表される構造を有するアルキルビニルエーテルの単独重合物又は共重合物からなるポリビニルエーテル系化合物も使用することができる。なお、上記のポリビニルエーテルについては、特開平 6-128578 号公報又は特願平 5-125649 号、特願平 5-125650 号、特願平 5-303736 号各明細書のそれぞれに詳細に記載されているものをいずれも使用することができる。

【0046】上記 (B) 成分の基油は、100℃におけるその動粘度が 5 cSt 以上である。この粘度が 5 cSt より小さい場合はシール性が悪く、かつ潤滑性能が低下し好ましくない。このような観点から、この粘度範囲は 10 cSt 以上、特に 10~500 cSt であることが更に好ましい。本発明においては、上記 (A) 成分の CO₂ 冷媒と (B) 成分の基油の使用量については、

(A) 成分 / (B) 成分の重量比で 99/1~10/90 の範囲にあることが好ましい。(A) 成分の量が上記範囲より少ない場合は冷凍能力が低下し、また上記範囲より多い場合はシール性が悪くかつ潤滑性能が低下する。このような観点から、上記 (A) 成分 / (B) 成分の重量比は、95/5~30/70 の範囲にあることが更に好ましい。

【0047】本発明の冷凍機油組成物には、必要に応じて公知の各種添加剤、例えばトリクレシルホスフェート

ある場合には複数の $R^{1'}$ O は同一であっても異なってもよい。) で表される構造を有するポリビニルエーテル系化合物も使用することができる。さらに、本発明においては、一般式 (XIII) 又は (XIV)

【0042】

【化 13】

(TCP) などのリン酸エステルやトリスノニルフェニルホスファイトなどの垂りん酸エステルなどの極圧剤；フェノール系酸化防止剤、アミン系酸化防止剤、さらにはフェニルグリシジルエーテル、シクロヘキセンオキシド、エポキシ化大豆油などのエポキシ化合物などの安定剤；ベンゾトリアゾール、ベンゾトリアゾール誘導体などの銅不活性化剤；シリコン油やフッ化シリコン油などの消泡剤などを適宜配合することができる。更に、耐荷重添加剤、塩素補足剤、清淨分散剤、粘度指数向上剤、油性剤、防錆剤、磨食防止剤、流動点降下剤等を所望に応じて添加することができる。これらの添加剤は通常、本発明の組成物中に 0.01~10 重量%含有される。本発明の潤滑油組成物は、種々の冷凍機に使用可能であるが、特に、圧縮型冷凍機の圧縮式冷凍サイクルに好ましく適用できる。とりわけ、本発明の潤滑油組成物は、例えば添付図 1~3 の各々で示されるような油分離器及び/又はホットガスラインを有する圧縮式冷凍サイクルに適用する場合にその効果を有効に奏するものである。

【0048】

【実施例】次に、本発明を実施例によりさらに具体的に説明するが、本発明はこれらの例によってなんら限定されるものではない。なお、潤滑油組成物の性状及び性能は、次の方法に従って求めた。

(1) 溶解性

油100gに50kg/cm²の加圧条件下で炭酸ガスを吹き込み、油中における炭酸ガスの溶解量(重量%)を測定した。

(2) シールドチューブ試験

ガラス管に触媒Fe/Cu/Alを入れ、炭酸ガス/油/水=0.5g/4g/0.02gの割合で試料を充填し封管した。175℃で10日間保持した後、油外観、触媒外観、全酸価及びスラッジ有無を評価した。

(3) 吸湿性試験

油10gを湿度85%R.H.(30℃)にて120時間放置した後の吸湿量(重量%)を求めた。

(4) ファレックス焼付試験

ファレックス試験機を用い、ビン/ブロック材料をA1S1C1137/SAE3135とした。ビン/ブロックをセットし、試験容器内に試料の油200gを入れ炭酸ガスを5リットル/hで吹き込んだ後、回転数290rpm、油温50℃で焼付荷重を測定した。

【0049】実施例1~11及び比較例1~4
第1表に示す性状の基油を用いて、その各々について上記の方法で各試験を行い評価を行った。結果を第2表に示す。

【0050】

【表1】

第 1 表

基油		動粘度(cSt) (100℃)
MO	ナフテン系鉱油	22
AB	アキバベンゼン	3
PAG-A	ポリオキシプロピレングリコールポリチカルエーテル (PO/EO=7/3)	25
PAG-B	ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリコールポリチカルエーテル (PO/EO=7/3)	30
PAG-C	ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリコールポリチカルエーテル (PO/EO=5/5)	4
PAG-D	ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリコールポリチカルエーテル (PO/EO=5/5)	32
PAG-E	ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリコールポリチカルエーテル (PO/EO=5/5)	100
PAG-F	ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリコールポリチカルエーテル (PO/EO=3/7)	35
PAG-G	ポリオキシプロピレングリコールモノチカルエーテル (ユニカーPMB11, 日本油脂社製)	27
PAG-H	ポリメチルシクロオキシプロピレングリコール	25
PVE	ポリビニルエチカルエーテル/ポリビニルチカルエーテル 共重合体	20
ES	ポリグリセリン 脂肪酸エステル	20

【0051】

【表2】

表 2

	基油	CO ₂ 溶解量(%)	7-2772-7試験結果				吸湿性(%)	地付荷重 lbs
			油 外観	炭 煤 外観	全酸価	ア マ ツ		
比較例 1	MO	7	良好	良好	0.1 >	無	0.1 >	600
比較例 2	AB	9	良好	良好	0.1 >	無	0.1 >	250
実施例 1	PAG-A	31	良好	良好	0.1 >	無	1	1000
実施例 2	PAG-B	34	良好	良好	0.1 >	無	2	1100
比較例 3	PAG-C	39	良好	良好	0.1 >	無	6	400
実施例 3	PAG-D	39	良好	良好	0.1 >	無	6	1100
実施例 4	PAG-E	39	良好	良好	0.1 >	無	6	1300
実施例 5	PAG-F	41	良好	良好	0.1 >	無	15	1200
実施例 6	PAG-G	25	良好	良好	0.1 >	無	2	800
実施例 7	PAG-H	35	良好	良好	0.1 >	無	3	1000
実施例 8	PVE	38	良好	良好	0.1 >	無	0.5	1000
比較例 4	ES	26	褐色	黄色	8	有	0.3	—
実施例 9	実施例 3 + TCP(1%)							1600
実施例 10	実施例 7 + トリス(2-メチル-2-ブチル)イソシアヌレート(1%)							1900
実施例 11	実施例 8 + TCP(1%) + トリス(2-メチル-2-ブチル)イソシアヌレート(1%)							2100

【0052】

【発明の効果】本発明によれば、冷媒としてのCO₂雰囲気下で潤滑性能に優れ、シール性の高い冷凍機用潤滑油組成物を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】油分離機及びホットガスラインを有する圧縮式冷凍サイクルの一例を示す流れ図である。

【図 2】油分離機を有する圧縮式冷凍サイクルの一例を示す流れ図である。

【図 3】ホットガスラインを有する圧縮式冷凍サイクル

の一例を示す流れ図である。

【図 4】圧縮式冷凍サイクルの流れ図である。

【符号の説明】

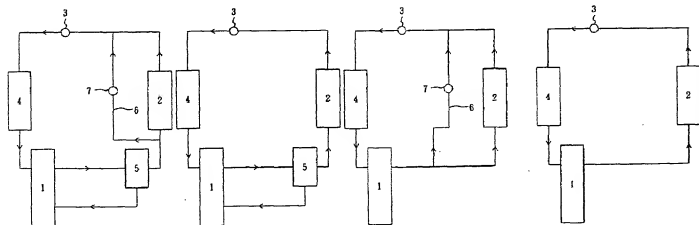
- 1：圧縮機
- 2：凝縮器
- 3：膨張弁
- 4：蒸発器
- 5：油分離器
- 6：ホットガスライン
- 7：ホットガスライン用弁

【図 1】

【図 2】

【図 3】

【図 4】



フロントページの続き

(51) Int. Cl.⁴

C 1 0 N 30:06

40:30

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所